

式で板ガラスを使用し、電球は100Vのものである。車両数灯は番号表示器単独のもので緑色、橙黄色各1個を使用し、前記と同様板ガラスで、使用電球は100Vのものである。(近藤敏夫)

あいずしゅ 合図手 機関区、電車区におかれる職で、区長の指揮をうけて、区専属の線路における、信号機、転轍(てんてつ)器の取扱、および区専属線路内の車両の入換に従事するものである。とくに命ぜられたときは、転車台の取扱に従事する。この職名は昭和32・1・1誘導掛と改められた。(加藤誠次郎)

あいずせん 会津線 磐越西線会津若松駅から会津川口駅に至る60.8kmおよび西若松駅から会津滝ノ原に至る57.4kmの線より成る営業キロ118.2kmの線。磐越線に属し線路等級は簡易線である。

会津若松から会津宮下・川口・只見を経て上越線小出を結ぶ鉄道の一部として、大正15・10会津若松・会津坂下間開通、会津線と呼称、昭和3・11会津坂下・会津柳津間、ついで昭和6・10には会津宮下まで、昭和31・9に至り会津川口まで開通した。また別線西若松・会津滝ノ原間は、西会津から会津田島、会津滝ノ原を経て日光線今市を結ぶ鉄道の一部として、昭和2・11西若松・上三寄間、昭和7・12上三寄・湯野上間と開通し、昭和28・11会津滝ノ原まで開通した。線名は南北会津郡地方をとっているので名づけた。(森 梯寿)

アイルランドのてつどう アイルランドの鉄道 アイルランドにおける鉄道の創設は比較的早く、1834・12ダブリン(Dublin)からキングスタウン(Kingstown)まで開通したのが最初である。

アイルランドは1937年英国から内政を独立してエール共和国となったが、1949年英国との一切の関係を断って完全な独立国となった。しかし北アイルランドは現在なお英領であって、その領域内の鉄道はエールの鉄道とは全く関係なくアルスター運輸公社(Ulster Transport Authority)によって管理されている。

1924年鉄道法によってエール内の大南西部鉄道(Great Southern & Western Railway)、ミッドランド大西部鉄道(Midland Great Western Railway)、ダブリン南東部鉄道(Dublin South Eastern Railway)、コーク・バンドン南岸鉄道(Cork, Bandon & South Coast Railway)の4大鉄道会社は若干の小鉄道と共に統合され大南部(Great Southern Railway)となった。1934年大南部鉄道は乗合自動車会社 Irish Omnibus Co. と貨物自動車会社 John Wallis & Sons Ltd. を吸収した。

1944年運輸法にもとづいて大南部鉄道とダブリン連合運輸会社(Dublin United Transport Co. Ltd.)は合併してアイルランド運輸会社(Coras Iompair Eireann)を組織した。ついで1950年運輸法にもとづいてアイルランド運輸会社と大運河会社の企業は1950・6アイルランド運輸管理委員会(Board Called Coras Iompair Eireann)に譲渡された。

管理委員会は1名の委員長と6名の委員から構成され、アイルランド運輸会社の企業を管理するが、実際の権限は総支配人に委任している。

現在鉄道網は首都ダブリンからウォーターフォード(Waterford)、コーク(Cork)、ガルウェイ(Galway)、シルゴー(Silgo)に至る線を幹線として、大体国内平均に発達している。

軌間は他の国にほとんど見られない1.60m(5'3")軌を標準軌としているが若干の狭軌(0.914m)もある。

線路延長は3,227kmで、うち240kmが狭軌である。

1954年度輪転材料は蒸気機関車424両、ディーゼル機関車8両、ディーゼル・レールカー60両、客車1,158両、貨車12,062

両、社用車1,131両である。

参考文献 Henry Sampson, World Railways(1954~1955). Tothill Press Limited, Directory of Railway Officials & Year Book(1954~1955)。(柄沢貞治郎)

あかたにせん 赤谷線 羽越本線新発田駅から東赤谷駅に至る18.9kmの線。羽越線に属し線路等級は簡易線である。

大正14・11会社専用線をゆずり受け、新発田・赤谷間運輸営業開始、赤谷線と呼称、昭和16年東赤谷まで延長したものである。(森 梯寿)

あがつません 吾妻線 群馬県北群馬郡渋川町と同県吾妻郡草津町および長野県小県郡長村(真田・菅平)方面とを結ぶ国鉄自動車路線であって、所管する自動車営業所は群馬県吾妻郡長



野原町、同支所は同県北群馬郡渋川町および長野県小県郡長村(真田)にある。

1 区間・キロ程および沿革

吾妻本線

渋川・真田	85 km	昭10・12・11 開業
川原湯駅前・川原湯温泉	1	昭13・9・1
菅平口・菅平	8	昭21・4・15
千俣口・万座入口	7	昭31・7・7
新鹿沢温泉口・鹿沢温泉	6	昭32・6・1
上州草津線		
上州大津・上州草津	10	昭10・12・11
花敷線		
長野原・野反湖	26	昭30・12・15
引沼・花敷温泉	1	"

なお上記線中、千俣口・千俣間は昭24・1・30、新鹿沢温泉口・新鹿沢温泉間は昭13・9・1開業した。

2 営業範囲

旅客・手小荷物・貨物および団体貸切の取扱をしている。

3 使命

鉄道の代行ならびに上越線と信越線とを短絡するほか、観光路線としての使命をも有する。

4 特長

沿線は上信越国立公園であり、浅間・白根の両活火山を雄峰とした大小の山岳、吾妻川の流れ出す渓谷、草津高原・菅平高原の雄大さ、配するに草津温泉郷をはじめとして、川原湯、鹿沢、新鹿沢等の温泉が湯煙をただよわしている。

吾妻線は冬期間鳥居峠を除き通年運転をする。(可野虎男)

あかぼう 赤帽 (英) porter, red-cap porter (獨) Gepäckträger 駅構内において、旅客の依頼する手回り品を運搬することを業とするもので、構内営業規則上正規には手回り品運搬営業というが、古来その営業に従事する者は常に赤い帽子を着用しているのでこの名がある。(織田道明)

あかり 明り (英) outside work of tunnel 隧道(ずいどう)坑内作業に対し、坑外の仕事のこと。(別所多喜次)